

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	令和4年6月3日	評価結果市町村受理日	令和4年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和4年6月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で家族との面会や外出もままならない日々ではあるが、家族・地域と利用者との関係性を大事にしていきたいと考えている。認知症の進行とともに難しくなることは増えてくるが、日々の生活の中で利用者の残されている能力を確認し少しでも長く維持できるように努めている。グループホーム内では個々の職員が愛情をもって利用者へ接し家族のように協力して生活の場を作り上げるようにしている。職員会議は勿論の事、日々のミーティングの時間も利用してケアの仕方を話し合う機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍で、色々な制限がある中、家族の面談を少しでも取れる工夫をしたり、菜園を楽しんだり、鳥の巣箱を設置したりと環境を最大限利用し、遠くへの外出が出来なくても、楽しく生活できる工夫を、職員が皆でケアを話し合い支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げ管理者・職員ともに共有している。地域密着という考えは常に意識しているが、コロナ禍では実現できない部分も多い。	会議の都度、意識し話し合っているがここ2年コロナ禍で、大変な部分もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ禍の中、外出や地域との交流は難しいが、毎月家族へ近況報告を送る、移動スーパーやかかりつけ美容院に出かける等交流が途絶えないよう努力している。	長引くコロナ禍で、皆での外出や行事への参加等は制限がある中交流が途絶えることが無いよう移動スーパーや美容室等へ出かける工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響を受け外部との接点は少なくなっている。感染症の状況をみながら運営推進会議を開催したり、電話での相談を受ける等努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は1回だけの開催になってしまったが、報告や話し合いが出来たことは有意義だった。運営推進会議での意見は職員間で回覧しサービス向上に活かせるよう努めている。	サービスの実際、取組等を家族や参加者等で話し合い、意見、要望等は更にミーティング等で周知し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のサロンに出席して顔なじみの方と会う事を楽しみにしていた方も多かったので残念に感じている。ケアマネ連絡会に参加するなどできる範囲で努力している。	市役所や連絡会等には、コロナ禍で、書面等での情報になっており、電話や窓口等で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか常に意識し「これはどうなのか」と不安なことは職員間で話し合ったりお互いに声を掛け合いながら身体拘束防止に取り組んでいる。	身体拘束等は有りません。内部研修等で勉強会をしており、外部研修等はオンラインになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはいけないものと共通の意識を持ってケアに取り組んでいる。なぜ起こるのかも共有し防止に努めている。言葉がけに気を付け人格を尊重している。		

〔評価機関〕

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	改めて学ぶ場はなかったが後見人制度を利用している方、これから始める方もいたのでその都度関係者と連絡を取り合い現場として学ぶ機会を持てた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は可能な限り施設内や利用者の様子を実際に見てもらい、本人や家族に理解して頂けるようにしている。普段の姿を見てもらい不安や疑問については対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は手紙電話は元論、通院時や面会時にも聞かせて頂き出来る限り速やかに対応している。意見や要望は職員間で共有し運営やケアに反映させている。	家族会は開催出来ていませんが、意見や要望等は、通院時や面会時、手紙や電話等できめ細かく対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で職員の意見や提案を取り上げ話し合うようにしている。また個人面談の場を設け話しやすい環境を作っている。	普段から会議やミーティング時個別面談時等で話しやすい環境があり、意見や提案を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や個々の事情を考慮し積極的に仕事に取り組める働きやすい職場環境を整備している。個別に面談し個々の力を発揮できる職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら法人内や外部の研修に参加できるよう便宜をはかっているが、コロナ禍の現状や職員数がぎりぎりぎりで切り盛りしている環境では十分に職員の希望に添えているとはいえない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流したい気持ちは持ち続けているがコロナ禍の状況で難しい。今後の状況を見ながら交流やネットワーク作り・勉強会への取り組みを再開しサービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話しやすい雰囲気配慮して聞き取る。出来る限り要望に応えるよう努力しているが、無理な場合は代案を示すなど本人の気持ちが落ち着くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入所までのお話をゆっくと聞き取るよう心掛けている。家族の気持ちに寄り添いながら入所後の希望・相談等を受け止め、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人に新しい環境に慣れて頂くことから始めている。本人の様子をよく観察し職員間で話し合い本人や家族の必要とするサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し信頼関係を築けるように努めている。個々の出来ることを見極め、少しでも長く続けられるよう支援に取り組んでいる。管理者や職員は利用者から元気や勇気をもたらしていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会もままならないが、入居者の日頃の様子を、担当からの近況報告として写真入りの手紙で伝えている。本人手書きの年賀状や電話で、離れて暮らしていても関係性や絆を継続できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流や外出等が難しい状態が続いているが自宅近辺へのドライブや行きつけの美容室へ通う、お墓参りをするなど本人の望むことはできる限りこたえられるように努力している。	長引くコロナ禍で、交流や外出の制限がある中、職員はお墓参りや行きつけの美容室等本人の望むことを応えられる様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性等を考慮して席を決めたり孤立しないよう職員が配慮しながら支援する。利用者同士で支えあえる場面では職員は一歩身を引いて見守りをしている。		

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係性の終了ではない。入院しそのまま鬼籍に入る方もいた。見舞いに行きたい気持ちは職員間で共通しているが面会もままならない。家族への電話で状況を伺ったり相談に乗ったりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団的ケアになりがちな面もあるが個を意識したケアに努めている。日々の生活の中で本人が選択できる機会を多く持てるようにし本人の希望はなるべく叶えられるよう努力している。	家族との連絡は密にとり、本人の希望や家族の思いを伺い、出来ることを検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表・本人や家族からの聞き取り・以前利用の事業所や担当ケアマネへの問合せも行い参考にする。何気ない会話や昔話の中からヒントをもらいこれまでの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・ミーティング・申し送りノート等を利用して情報交換を密に行い、利用者個々の変化を把握し職員間で共有するようにしている。夜間の様子については特に気にかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で家族をはじめ関係者間の連絡は取りにくい状態。電話や手紙、訪問看護の機会を利用して情報を集めるようにしている。それぞれの意見が出しやすい環境作りに努めている。	長引くコロナ禍で、今までと同じではないが、工夫をしながら話し合い計画を立てて本人や家族に説明し理解を得て支援に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や通院記録、検温版等を利用して身体状況、生活状況を職員間で共有して理解を深めるようにしている。ミーティングなどの場で話し合いケアプランの見直し・評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で制限があり取り組みが困難なこともあるが希望を伺い可能な限り対応するようにしている。対応が困難な場合も本人や家族にとって何が良い事なのかを考えながら柔軟な支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や利用には努力しているがコロナウイルスの影響で大きく制限されている。状況を見据えながら活動の場が広がっていくことを望んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院を自粛していた時期もあったが感染症対策をしっかりと取りながら通院再開している。必要な時には家族と同行し共通理解を深めるようにしている。	感染症対策をしっかりと取りながら通院の支援を再開し、予防接種や歯科も定期的に診察を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	温度版を活用している。訪問日に日々の様子や気づきを伝え適切な指示・助言を受ける。急な体調変化時には電話で相談し緊急訪問を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍での制限があり十分にできているとは言えないが機会を見つけて直接病状を聞いたりするようにしている。文書や電話を利用した情報交換もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時・入院時等に家族や主治医と話し合い、本人・家族の希望を聞きとり事業所として出来ることを説明している。主治医・訪問看護ステーション・家族の協力を得ながら支援に取り組んでいるが地域のチーム支援が十分とは言えない。	重度化や終末期については、利用者や家族の思いを伺い施設のできる事を説明し、家族の協力を得ながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え応急手当や初期対応について話し合い介護職として努力しているが、知識や技術で不安に感じる部分も多く訪問看護師に相談するなどしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。夜間、荒天時の災害や地震を想定し法人内他施設との協力体制を整えている。	消防の協力を得て、定期的に避難訓練を実施している。非常食も準備され、定期的に新しい物と入れ替え法人内の他施設との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴を考えあわせて言葉かけなど工夫している。1人ひとりに対してどのような対応や言葉かけが良いか職員間で情報を共有して支援している。	職員間で利用者の性格や生活歴を考えあわせて対応や言葉かけが良いか情報を共有して一人ひとりに工夫した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすい環境づくりを心掛け、決めつけたり無理強いすることなく、伝わりやすい言葉や選択肢を工夫して本人が自己決定しやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援しているが時に余裕がなくなり希望に添えない場合もある。代替の支援を提供するなどその日の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には鏡に向かい身だしなみを整えて頂いている。着替えの際など相談しながらその方の好きな服装が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決まっているが、月に数回お楽しみ食に変更して提供する。昔ながらの料理と一緒に作るなど工夫している。簡単な作業は一緒に行う。	長いコロナ禍で、外食等の機会が減り、月数回お楽しみ食に変更し、昔ながらの料理と一緒に作るなど食事が楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻んだりろみをつけたりして食事や水分を提供している。摂取量は毎回チェックし職員間で情報を共有している。摂取量の少ない方には好みの飲み物やおかずを個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防のために食後の口腔ケアを習慣にしている。出来るところまでは本人、仕上げやチェックを職員が行っている。ケアによって本人の歯を残したいが現実には難しい部分もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しその方の排泄リズムに合わせてさりげなくトイレに誘えるよう努力している。排泄用品の見直しをしたりしながらトイレでの排泄が継続できるよう工夫している。	職員が利用者の状況を把握し、さりげなくトイレに誘えるよう努力しトイレでの排泄にこころがけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らざるを得ない方も多いが、食事・水分の摂取、運動や食後にトイレに座ってもらうなど本人の負担が少なく定期的に排便ができるよう工夫している。主治医や看護師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその方のペースや希望を尊重し体調面から入浴時間を決めたり、声掛けのタイミングも工夫している。拒否のある方の誘い方など職員間で共有し気持ちよく入浴してもらえるようにしている。	入浴は利用者のペースや希望を尊重し、体調面から入浴時間を決めたり、声かけのタイミング等の工夫して、気持ちよく入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床や起床の時間は個々にあわせている。日中も生活習慣や体調を見ながら休息の時間を作り、夜間は安心して眠れるように明るさ等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や数量は一覧表を作り、個人別にすぐ確認できるようにしている。薬が変わった時は連絡ノートで申し送りし、体調の変化を記録に残すように習慣付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極めそれぞれが役割を持って生活し、やりたいことが出来るよう支援している。また、日常の会話から希望を聞き取り、それが叶えられるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブが中心となったが自宅近所に出かけたり季節の花を見に行き気分転換を図ってもらった。移動スーパーでの買い物を楽しんだり、家族や近所の方の協力を得て自宅に行ったりお墓参りに出かける等個々の希望に沿った支援を行っている。	コロナ禍で、外出が制限され皆での外出は難しいですが、色々アイデアを出し、ドライブで自宅近くまで出かけたり、個々の希望に沿った支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金の管理はグループホームで行っている。買い物をして自分でお金を数えて支払いをするなど個々の能力に応じて声掛けや見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり本人の希望で電話をするなど支援している。自分で電話をかける方には見守りをする。年賀状を出すなど行い、希望すればポストに投函する支援もする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、換気や臭いに気を配ったりしている。季節の行事物や個人の作品を飾るなど生活感のある空間作りを心掛けている。転倒の危険防止のため安全な動線を確認するようにしている。	庭の花を飾ったり、共有スペースのから見える杉の木に鳥の巣箱を設置し、小鳥のさえずりが聞こえたり、自然の環境が身近に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー等皆で過ごしたり独りになったり各々が工夫している。職員は常に個々の表情を見ながら心地よく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いたり家族の写真を飾ったりしている。リビングの他にも庭や道路を眺められる場所に椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。	居室は一人ひとりの馴染みな物が置かれ落ち着ける場になっている。庭や畑など見える場所にはいすが置かれ好きな場所で過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入口、トイレ、自分の居室等は表示をして分かりやすくしている。手すりを利用して立ち上がりやすく歩きやすいように工夫している。		